

🌸🌸🌸 富山県 🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸

中央植物園だより

2005.

1・2・3月号

(通巻34号)



ボケ *Chaenomeles speciosa* (Sweet) Nakai

中国原産の落葉低木。日本には平安時代に渡来したといわれ、庭木や盆栽、切花などに利用される。雑種起源のものを含む多くの園芸品種があり、花色は紅色から白色までさまざま。一重のほか、半八重、八重などの花形がある。

撮影：松本清徳さん（平成16年度私の植物写真展応募作品）

第33回 富山県 蘭まつり大会

話題の植物

活動報告

研究紹介

日本植物研究の歴史

黄花のシクラメン / ウメは咲いたか...

第12回 TOYAMA植物フォーラム ほか

富山県のフロラ調査

その6 植物の研究と植物園



ドリラス

<http://www.bgtym.org>

第33回 富山県 蘭まつり大会

平成17年2月25日(金)～2月27日(日) 9:00～17:00 富山県中央植物園 サンライトホール

年明けから早春にかけて、各地でラン展が開かれ、多くの人たちで賑わいます。富山でも毎年、富山県蘭協会主催による「富山県蘭まつり大会」が開かれてきました。「暮らしの中に蘭の花を」のテーマで行われるこのイベントは、花の少ないこの季節の富山に彩りを添えてくれます。

蘭まつり大会はこれまで富山県民会館で行われてきましたが、今年は富山県蘭協会と富山県中央植物園の共同主催により、植物園内の「サンライトホール」で3日間にわたって開催されます。

会期中はホール内がランの花で埋めつくされます。「花の女王」とも呼ばれるランの多様な美しさをご堪能ください。

ランの展示

全体で約250株のランが展示されます。おなじみのカトレヤ、コチョウラン、デンドロビウムなどを展示した「洋蘭展示コーナー」と、シュンランの仲間などを集めた「東洋蘭展示

コーナー」があります。また、ランの「生け花」の展示や、石川・福井洋らん会の協力による展示コーナーもあります。

栽培講習会

「ランの鉢植えをもらったが、うまく育てられなかった」という経験をお持ちの方は多いのではないのでしょうか。ラン栽培の基本は、自生地での生活条件をよく理解したうえで、その条件が満たされるように育てることだそうです。「ラン栽培講習会」では、栽培のコツについて解説します。

日時：2月26日(土)・27日(日)

10:00～11:30、14:00～15:30

会場：ドリアスホール

ランの即売

サンライトホール内にはランの展示だけでなく即売コーナーも設けられます。8店程度が出展の予定です。気に入ったランがあったら、ぜひ栽培に挑戦してみたいはいかがでしょうか。



昨年2月に行われた「第32回 富山県蘭まつり大会」

黄花のシクラメン

シクラメンの野生種は地中海沿岸を中心に約20種が知られています。今日の園芸品種はその中の一つであるシクラメン・ペルシクム *Cyclamen persicum* を改良して作り出されました。シクラメンの野生種には黄色の花が咲く種がなく、黄花シクラメンは長いあいだ育種家（品種改良をする人）の夢の一つでした。戦前にも存在していたようですが、1996年に「かぐや姫」と「ゴールドボーイ」が黄花シクラメンとして初めて品種登録され、大変話題になりました。黄色というよりはクリーム色といったほうがよいかもしれませんが、夢への第一歩でした。現在では10種類ほどの黄



シクラメンの園芸品種「キャンドルライト」（左）と「ピュアキャンディ」（右）。花はほのかに黄色味を帯びる

花シクラメンが流通しているようです。

（主任研究員 神戸敏成）

ウメは咲いたか...

ウメ *Prunus mume* は正月の松竹梅のお飾りや菅原道真にまつわる話など、古くから日本人には馴染み深い植物の一つです。ウメは花を觀賞するための花梅と、果実を収穫する目的で栽培される実梅に大きく分けられます。一般には「白梅」と「紅梅」という言い方をしますが、分類上これらは品種名ではなく、品種群の「野梅（やばい）系」と「紅梅系」にそれぞれ相当するものと考えられます。

花梅の早咲きの品種には「紅冬至」など12月ごろから開花するものもありますが、この時期に雪の降る地方ではせっかく咲いた花も雪で傷んでしまいます。一方、実梅は果実を確実に生産するためでしょうか、遅咲きの品種が多いようです。富山県産の実梅の品種「稲積」（氷見市稲積という地名に由来）も3月中旬から下旬に開花します。



園内のウメは例年2月下旬から本格的な見ごろを迎える

植物園のサクラ・ウメ園には現在47品種93本のウメが栽培されており、2月下旬から1ヶ月ほどが見ごろとなります。昨年春にはウグイスも多数飛来するようになり、今年も梅園の風情をより引き立ててくれることでしょう。

（主任研究員 山下寿之）

野外観察会「庄川水系の水草」

8月29日に行われ、10名の参加がありました。砺波市にある富山県花総合センターに集合した一行は、新又口用水と市野瀬川の調査に向かいました。自然護岸の市野瀬川では、水温15.8の湧水に手をつけてバイカモ、イチョウウキゴケ、ウキゴケ、沈水型のセリなどを観察。午後はさらに2ヶ所を調査したあと、花総合センターに戻って顕微鏡を使った観察と標本作りの実習を行いました。



トロピカルフルーツの観察と試食

9月12日に開催され、34名の参加がありました。熱帯果樹室で、トロピカルフルーツがどのような植物にできるのかを観察したあと、(株)うしじまの牛島政信さんによるトロピカルフルーツの食べ方についての講習を受けました。ドリアン、マンゴスチン、ドラゴンフルーツ、チェリモヤなど珍しいフルーツを試食することができ、参加者にはたいへん好評でした。



友の会きのこ部会写真展

植物園友の会の「きのこ部会」会員が撮影したきのこの写真の展示会が、10月1日から11月3日までサンライトホールで開かれました。15名から102点の作品が出展され、見ごたえのある写真展となりました。入園者からは「こんなにさまざまなきのこが山にあるのか!」「このきのこは採ったことがある」などの声があり、県民のきのこに対する関心の高さを再認識させられました。



県民カレッジ連携講座「植物染め講習会」

女子美術大学の足立紀美子さんを講師にお迎えして、11月14日に開催されました。参加者は17名。今回は、カリヤス、セイタカアワダチソウ、アメリカセンダングサを染料植物として用い、絹のハンカチを染めました。参加者からは、「媒染をする意味など、いろいろなことが学べて有意義だった」「糸を染めて織物ができたらと夢がふくらみます」などの感想が寄せられました。



特別展「園芸菊と野生菊」

中央植物園では初のキクの展示会が11月5日～12月8日に開催されました。サンライトホールへの通路には、大輪系の厚物、小菊、スプレー菊のほか、古典菊と呼ばれる伊勢菊、嵯峨菊、江戸菊などの品種が並べられ、来園者の目を楽しませていました。また、サンライトホールでは日本各地の海岸などにみられる野生ギクを紹介する展示が行われました。



第12回 TOYAMA植物フォーラム 「菊 野生種から最新品種まで」

11月7日に富山県中央植物園の研修室で開催され、キク属の野生種から最新の園芸品種まで、幅広い内容について講演と討論が行われました。参加人数は約70名で、県外からも多くの参加がありました。

広島大学付属植物遺伝子保管実験施設講師の谷口研至さんには「野生ギクの系統とキクの起源」と題して、DNA解析によるゲノムマーカーの探索やイエギクの起源についてお話していただきました。富山県中央植物園の中田政司副主幹研究員による「野生ギクの保全に関する問題点」では、園芸ギクとの交雑による野生種の絶滅やノリ面緑化にともなう外来キク属の侵入などの問題が指摘されました。

後半は園芸ギクに話題を移し、花き研究所生



理遺伝部長の柴田道夫さんから「キクの育種の動向と今後の課題」のテーマで主要品種の動向と種間交雑・遺伝子組換えによる品種改良についてのお話を伺いました。また、福野町園芸植物園（現南砺市園芸植物園）園長の石崎力さんには、「富山県福野町で育成されたスプレーギクの新品種」のテーマで福野でのキク栽培や新しい品種について紹介していただきました。



会場には福野のスプレーギクが飾られ、彩りを添えた



講師の谷口先生(左上)、中田研究員(右上)、柴田先生(左下)、石崎先生(右下)

富山県のフロラ調査

主任 大原 隆明

「フロラ」という言葉を聞いたことがありますか？ フロラとはローマ神話の花と春の女神の名前ですが、植物学では「植物相」を意味します。つまりフロラ調査とは、ある地域にどのような種類の植物が生育しているかを明らかにする調査をいいます。

富山県のフロラに関する資料としては1983年発行の『富山県植物誌』があり、県内に産する植物として2,445種類が挙げられています。しかし富山県のフロラ調査はまだ不十分であり、実際にはそれよりもかなり多くの種類が生育していることが予想されます。このことから中央植物園では開園以来、県内のフロラ調査を継続して行っており、昨年度までに80種類以上の県新記録となる植物を報告してきました。

このうちのひとつ、小杉町で発見されたセトヤナギスブタは水田などの浅い水中に生育する水草で、東南アジアから西日本に分布する南方系の植物です。富山県以北の地域からはこれまでに報告はなく、本県は日本海側で唯一の確実な産地であると同時に、本種の北限産地でもある可能性が高いと考えられます。本種のように本県を分布の北限域とする植物や、逆に南限域とする植物は予想以上に多いのかもしれませんが。富山県のフロラ調査を行うことは、単に一地域の植物相を解明するという以上に、日本の植物地理を論じる上で欠かせない情報を得るという大きな意味があると考えられます。

また、県外や海外から新たに県内に侵入する植物も多数あります。その一例



小杉町の休耕田で見つかったセトヤナギスブタ

が婦中町や富山市の水田で見出されたアメリカキカシグサです。本種はその名の通りアメリカ原産の一年草で、日本では神奈川県で得られたものを元に1999年に報告されたばかりの新参者ですが、富山県では早くも発表の1年後に侵入が確認されました。以前ならば外来種は都会や開港地から徐々に広がるのが一般的でしたが、物流の発達した現在ではそうとばかりも言えないようで、ここ富山でも常に調査の目を光らせる必要があります。

2003年春には、県内のフロラ調査を目的とする「植物誌部会」が中央植物園友の会内に発足し、活発に調査や標本の収集を行っています。これに伴い、県内で新たに見つかる植物の数も増加する傾向にあり、今年度も多数の県新記録となる植物が発見されました。これらについては2月開催の「平成16年度研究発表展」で紹介する予定です。



婦中町や富山市で分布を拡大しつつあるアメリカキカシグサ

その6 植物の研究と植物園

企画情報課長 中田 政司

前回ご紹介した牧野富太郎が東京帝国大学で職を得ていた頃、当時の植物学教室は現在の東京大学大学院理学研究科附属植物園の中にありました。昔は小石川植物園と呼ばれていた所で、江戸時代には「小石川養生所」や薬草園があったところです。黎明期の日本の植物学研究の舞台はまさに植物園にあったわけですが、大学附属の施設であったため、市民の憩いの場であり社会教育の場であり植物学研究の場であるという植物園ではなかったようです。

日本には(社)日本植物園協会に加盟している植物園が約130あり、管理形態別に 大学附属、私立、国公立、薬用植物園と分けられています。私立、国公立植物園は入園者の獲得が大前提であるため、調査研究を行う園は少数でした。一般的に日本では、植物園とは花をたくさん集めた憩いの場、すなわち公園としてしか認識されていないことが多く、優れた研究業績を持つ植物園でもその評価は入園者数でしか測られないのが現状です。一方、もともと教育・研究の場であった大学附属植物園や薬用植物園ですが、最近では逆に一般公開が進み、いろいろな催しが行われているようです。

昔から人間は植物を食料として、あるいは薬、工業原料、装飾(園芸)としてさまざまに利用してきました。世界一の植物園であり植物学の研究施設、植物情報センターであるイギリスの王立キュー植物園も、かつては植民地政策の下で資源植物の研究を行う戦略的拠点でした。時代が変わった今も、植物園は生きた植物を材料として植物の基礎的な研究を行ない、それによって植物産業の基盤づくりに貢献するという役割は変わっていません。

また、最近植物園がクローズアップされている一面に、絶滅危惧植物の保全があります。保全の第一歩といえる地域植物相の調査の拠点と

して、また、調査の過程で明らかになった希少植物の増殖・栽培の舞台として、植物園の社会的役割が再認識されています。

このような中、国内の植物園5園が集まって平成16年7月に「日本研究植物園連合」が発足しました。研究型植物園の社会的役割の重要性と正当性を明確に位置づけ、その連携によって活動を強化し、広く各界にアピールしていくというものです。中心になったのは高知県立牧野植物園と富山県中央植物園で、国立の筑波実験植物園、市立の広島市植物公園、町立の福井総合植物園が加わっています。

平成16年11月19日には連合の結成を記念して、「人間にとって研究植物園は今なぜ必要か」と題する国際シンポジウムが東京で開かれました。米国立熱帯植物園園長のP.A.コックス博士とキリンビール(株)アグリバイオカンパニー社長松島義幸氏の基調講演の後、5人のパネリストにより植物産業の発展と植物園の役割についてパネルディスカッションが行われました。

植物園における調査研究が財政的な面で危機に直面している現在、連合5園の連携による研究費の獲得と研究活動の活性化が期待されます。



日本研究植物園連合発足記念シンポジウムでのパネルディスカッション

これからが見ごろの植物



シムビジウム
ラン温室



カトレヤ類
ラン温室



トウツバキ
雲南温室

イベント案内

無料開園

ソメイヨシノと夜桜観賞

日 時：ソメイヨシノの満開日3日間 9:00～21:00
(入園は20:30まで)

サンライトホール展示

企画展「平成16年度研究発表展」

2月4日(金)～2月23日(水)

富山県蘭まつり大会(富山県蘭協会共催)

2月25日(金)～2月27日(日)



第10回 私の植物画展

3月4日(金)～3月30日(水)

講座・講習会

平成16年度 研究発表会

日 時：2月6日(日) 13:00～16:00

場 所：研修室

参加費：無料

月例行事

日曜植物案内

開催日：2月6日(日) 3月6日(日) 4月3日(日)

時 間：11:00～12:00

参加費：大人(高校生を除く)の方は入園料が必要

植物園オリエンテーリング

開催日：4月17日(日)

受付時間：10:30～11:30

参加費：大人(高校生を除く)の方は入園料が必要

私の植物画展

作品募集のお知らせ

富山県中央植物園では、「第10回 私の植物画展」(3月4日～30日)に展示する植物画の作品を募集しています。

作品

- 科学的に正確な精密画で、透明水彩絵具で彩色したもの、あるいは墨入れた線画
- 大きさはA3サイズ(297mm×420mm)以下
- 原則として1人1点
額装の必要はありません

応募方法

- 作品の裏面に以下の事項を記入し、植物園まで持参または送付してください。氏名、描いた植物名、完成年月日、住所、電話番号
- 郵便での返送をご希望の方は郵便切手を添えてお申してください。また着払い宅配便での返送をご希望の方はその旨お知らせください。

締切り 平成17年2月13日(日)



友の会会員募集中!

富山県中央植物園友の会は、中央植物園を中心に植物の観察・学習などを行い、植物についての知識を深めるとともに、植物園の諸活動に協力することを目的とした会です。

特典 会員証を示しサインするだけで入園できます。/ 会報や植物園だよりが送られてきます。/ 多彩な友の会の行事に参加できます。/ 印刷物を割引で購入できます。

会費 年額3,000円

入会方法 植物園の入園窓口で随時入会を受け付けています。/ 郵便振替を利用する場合は、次の口座あてに会費を払い込みください。

口座番号：00790-2-11221

加入者名：富山県中央植物園友の会

有効期限 ご入会の日から翌年の3月31日まで。

問合せ先 富山県中央植物園友の会事務局
担当) 高橋 TEL. 076-466-4187

富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)

11月～1月は9:00～16:30(入園は16:00まで)

休園日 毎週木曜日、年末年始(12月28日～1月4日)

入園料 団体料金(20名以上)

大人(高校生以上) 600円 480円

小人(小・中学生) 300円 240円

土・日・祝日は児童・生徒無料